

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

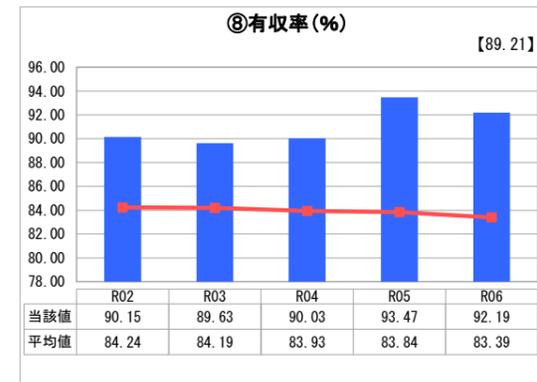
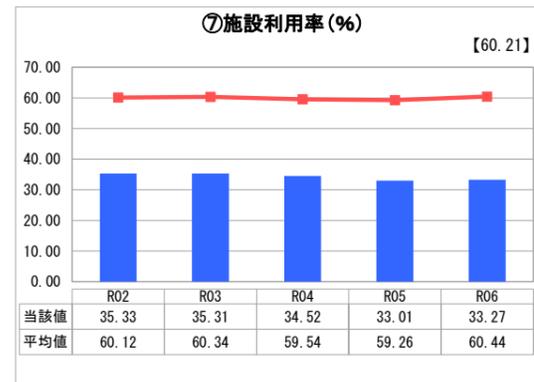
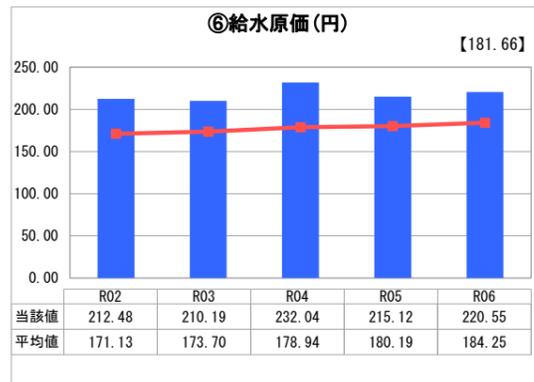
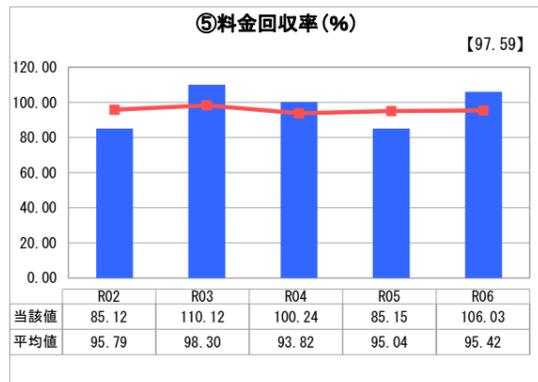
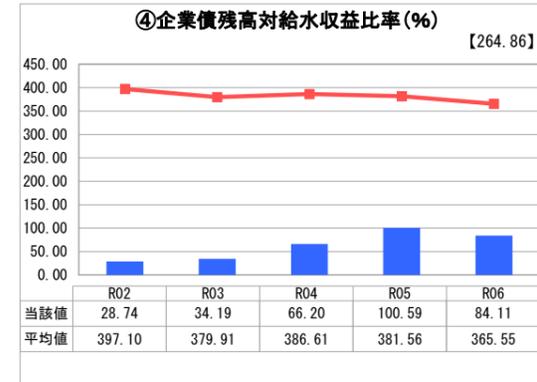
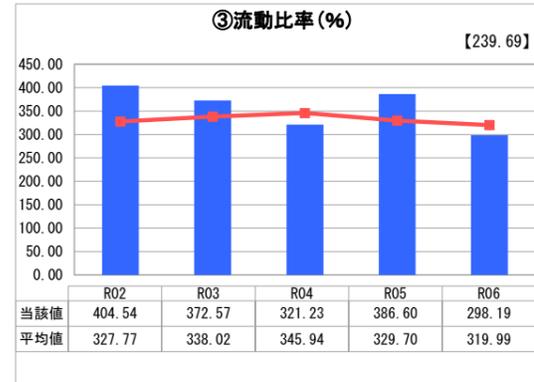
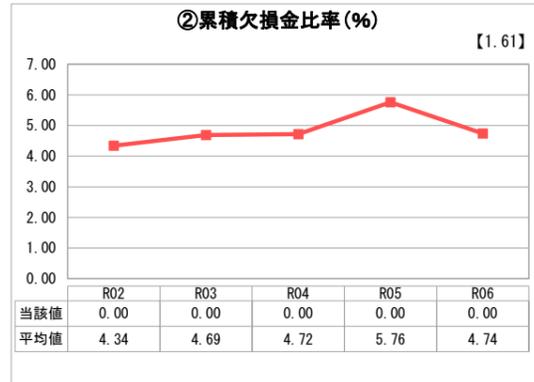
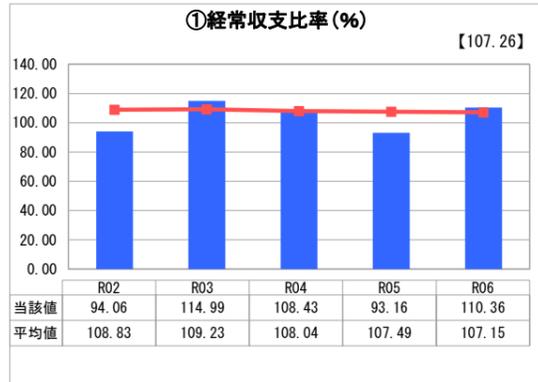
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	85.81	99.04	4,268	

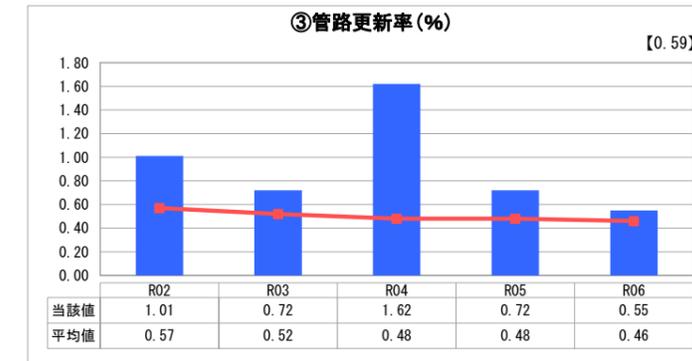
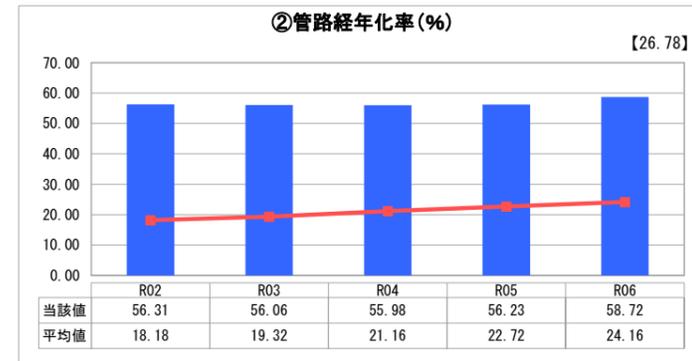
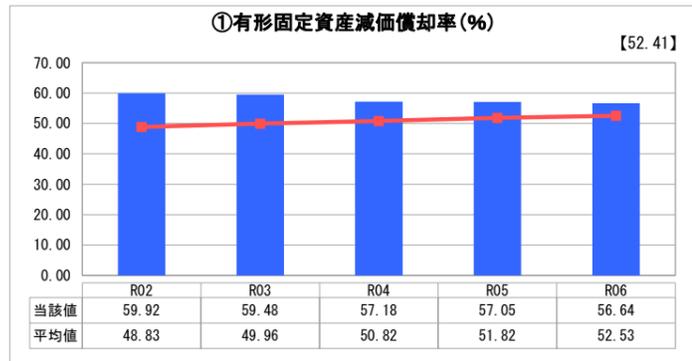
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
44,030	136.07	323.58
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
43,223	136.24	317.26

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①「経常収支比率」⑤「料金回収率」  
令和6年度は100%を上回っており、健全な経営状態となっています。令和5年度は水道基本料金の免除を6か月間行ったため低くなっています。

②「累積欠損金比率」  
累積欠損金は平成23年度以降はありません。

③「流動比率」  
100%を上回っており、1年以内に支払うべき債務に対する支払能力が十分にあります。令和4年度は海底送水管の更新工事費用がかさんだため、令和6年度は工事費の未払金が増加したため、大幅に低下しています。

④「企業債残高対給水収益比率」  
類似団体平均値より大幅に下回っていますが、施設の更新時期を迎え企業債の借入が必要なため、近年は増加傾向にあります。

⑥「給水原価」  
水源が遠く、また島しょ部を含む市内全域に給水していることにより多くの費用が必要なため、類似団体平均値を上回っています。令和6年度は委託料が増加したため、前年度より上昇しました。

⑦「施設利用率」  
給水人口の減少が続いて配水量が増えず、類似団体平均値より低くなっています。

⑧「有収率」  
令和6年度は前年度と比べて1.28ポイント低下しましたが、類似団体平均値を上回る水準を維持しています。

### 2. 老朽化の状況について

①「有形固定資産減価償却」  
類似団体平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況ですが、計画的な管路更新により遅滞しています。

②「管路経年化率」  
過去に集中して整備した管路が、法定耐用年数を迎える時期のピークを過ぎ、令和2年度以降は横這いとなっていますが、類似団体平均値を大きく上回っています。

③「管路更新率」  
中長期更新計画に沿って施設の更新を行っているため、類似団体平均値を上回っています。令和4年度は海底送水管（延長4.8km）の更新工事の完了のため、高くなっています。

### 全体総括

健全な経営状態を維持していますが、近年は人口減少や節水型機器の普及に伴い給水収益が減少傾向にあります。令和6年度は海底送水管等の漏水により、有収率が低下しました。今後はAI等の最新技術を活用した漏水調査を進め、有収率向上を図ります。

また、水道施設の中長期更新計画に沿って令和元年度から水道施設の更新事業に着手しているため、今後は老朽化の状況に関する指標も改善傾向になると見込んでいます。

今後とも当市水道事業の基本計画である笠岡市水道事業ビジョン（平成29年度策定）及び経営の基本計画となる経営戦略（令和2年度策定）に基づいて、健全な経営状態が維持できるよう計画的に取り組みます。